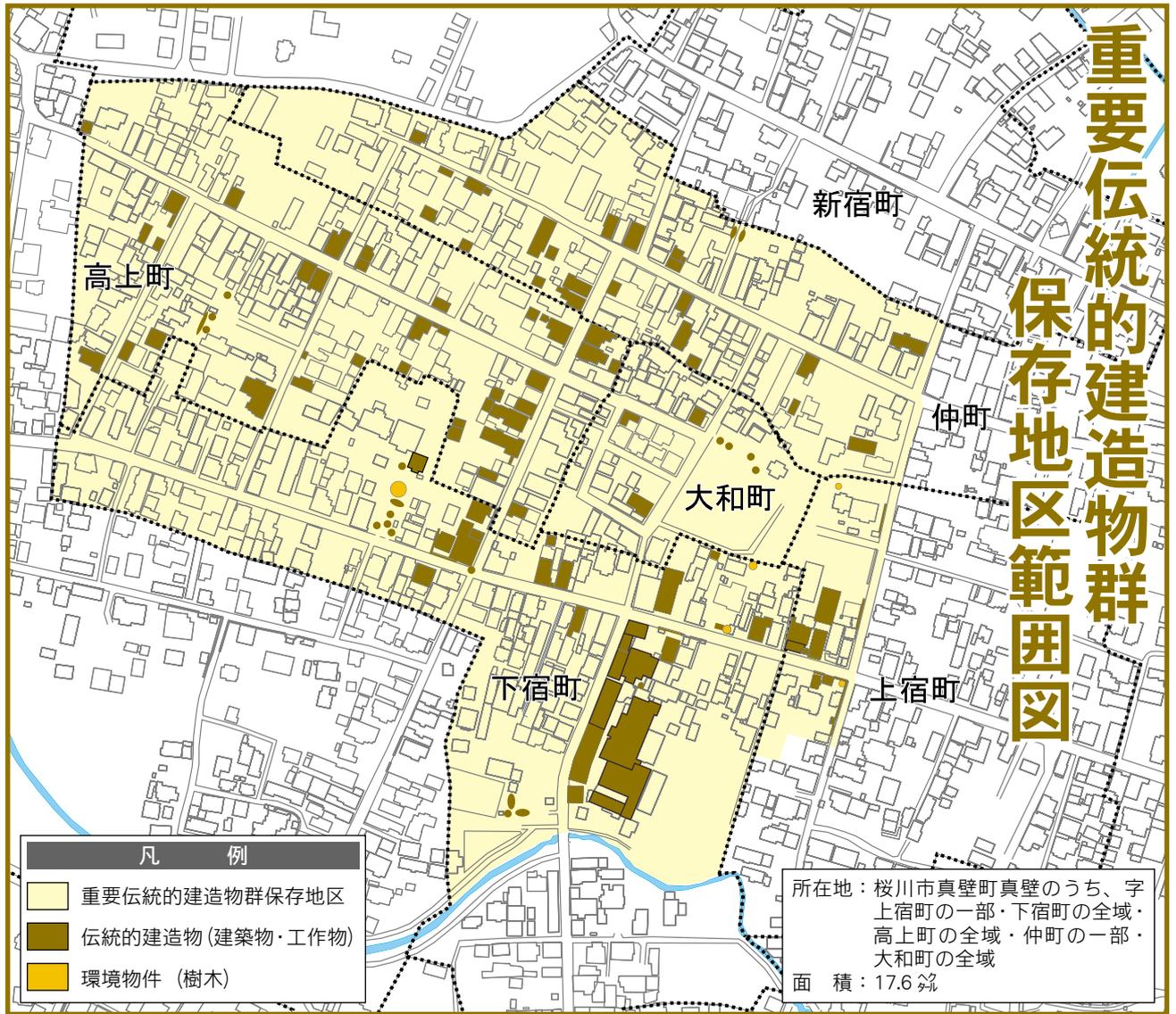


# 重要伝統的建造物群 保存地区範囲図



## 真壁の町並み保存の歩み

- 昭和50年代／見世蔵や土蔵の取り壊しが目立ち始める。解体作業の写真記録が取られる。  
かわのむねよし
- 平成はじめ／小山工業高等専門学校の河東義之先生が真壁で伝統的な町並みの調査を行う。
- 平成4年／資料館で「真壁の町並みと景観」展を開催。
- 平成5年／真壁の伝統的な町並みの啓蒙、継承を目的に住民有志が「ディスカバーまかべ」を結成。  
 ・真壁の町並みを題材に写真展・絵画展  
 ・旧真壁郵便局や村井醸造石蔵でコンサート  
 ・町並み保存の先進地への研修ツアー  
 ・イラストマップ作成や「かわら版」の発行  
 ・町並み保存に関する行政への提言、協力など真壁の町並み保存に向けた活動を展開
- 平成11年／登録文化財制度への取り組みを開始。平成17年までに104棟を登録、注目を集める。
- 平成12年／仲町商店会有志が町家を休憩所として開放。
- 平成13年／所有者を中心に「登録文化財を活かす会」を結成、保存への課題検討などを行う。  
 登録文化財の見学者への案内説明を行う「真壁街並み案内ボランティア」が誕生。
- 平成15年／町並みに雛人形を飾る「真壁のひなまつり」が始まり、真壁の町並みへの注目が高まる。  
 伝統的建造物群保存対策調査（平成17年）  
 旧真壁郵便局を中心に、町並みを活用したまちづくりを行う「まちづくり真壁」が誕生。
- 平成21年／真壁地区を伝統的建造物群保存地区に決定。

